

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成18年4月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会			
事業所名	グループホームなごみ			
所在地	(〒239-0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年7月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の湘南病院が協力医療機関であり、医師の往診や看護師による健康管理ができており、入居者様やご家族の安心に繋がっている。 ・入居者様の“心”に残る様なイベントを毎月行う予定で年間の行事計画を立てている(食事会・外出等)。 ・GH協会に加入し、エリア内での交流の機会を増やし、防災意識の向上や職員同士の資質の向上に努めている ・年1回入居者様にご家族と一日ゆっくり過ごしていただき、又事業所の様子を理解して頂くことを目的に、「なごみ祭り」を開催している ・認知症実践者研修には6割の職員が参加している(順次参加予定)。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年8月12日	評価機関 評価決定日	平成27年9月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇法人の湘南病院が協力医療機関で、内科医の往診が2週間ごとに歯科医は毎週ある。医療連携体制加算を取得して、看護師・医師との24時間連絡体制を確保している。また看護師が毎週事業所を訪れ利用者の健康管理に当たっており、利用者と家族の安心につながっている。</p> <p>◇職員にはシフトを工夫して、研修の機会を増やしスキルアップを図っており、過半数の職員が認知症介護実践研修を受講済みである。</p> <p>◇毎年「なごみ祭り」を開催し、バイキング形式の食事会で利用者と家族、職員がなごやかな楽しい一時を過ごしている。家族は利用者の日頃の生活振りを確認でき安心している。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇玄関や居間には生花を飾り、穏やかな雰囲気を醸し出している。</p> <p>◇あらかじめ献立表は作らず、その都度利用者の希望を聞いて食材を生協から取り寄せ、一般家庭同様に手作りの料理を提供している。</p> <p>◇日常の外出の補完を兼ね、月に1回は食事会や誕生日祝いなどの機会を設けて外出している。</p> <p>◇利用者の知的な好奇心を刺激し認知症の進行を遅らせるよう、利用者の関心のありそうな本や雑誌を図書館から借りて読んでもらっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームなごみ
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「利用者尊厳・介護と医療の協調・地域福祉の推進」と事業所の理念「意志を尊重し助けあいの、安らぎを実感できるホーム」を共に玄関に掲示することにより、職員の意識を高めている。	・法人の理念「利用者の尊厳、介護と医療の協調、地域福祉の推進」と事業所の理念「利用者の意思を尊重し安らぎを実感できるホーム」を、目につく玄関と台所に掲げ、スタッフ会議で職員に周知し、共有して実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の体調や、天候などを考慮し、地域の行事に参加するようにしている（防災訓練・盆踊り・祭礼など）。また地域の中学・高校の生徒に体験学習として訪問してもらうよう働き掛けている。	・町内会に加入し、祭礼や盆踊り、年2回の火災・地震・津波訓練などに利用者も参加し、地域の方々と交流している。 ・ハーモニカやギター、ハンドベルなどの音楽ボランティアを受け入れ、近隣の人も来所して利用者と共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々に情報を発信している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族が参加し、2か月毎に開催することを目標に進めている。事業所の活動経過報告後、地域の防災対策等で意見交換している。	・会議は2か月ごとに、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し、市職員は年1回は出席して開催している。 ・会議では事業所の活動報告の後、防災対策、地域交流策などで意見交換をし、内容により直ちに運営に反映している。	・会議には利用者家族も参加できるように、開催日などを工夫して働きかけることが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでのやり取りや直接市町村に赴き相談や意見を頂いている。	・市の担当者に空室情報を送り、市からは研修会の案内を得るなど、メールを活用して連携している。 ・市のグループホーム連絡協議会に加入し、エリア部会で3か月ごとに情報交換し、年1回は交換研修を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故の防止という視点から、中扉は施錠してある	・職員は法人で実施する「身体拘束防止」の研修に参加している。 ・言葉をさえぎるなど利用者の抑圧感を招いていないかを職員会議で確認し、身体拘束防止に努めている。 ・玄関は開放し、中扉は防犯上家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底の為、全職員が研修を受講している。施設内での虐待はないが、言葉掛けなど利用者が不快に思うことのないように注意しながらケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修を随時受けるようにしている。知識としては知っているが、活用するまではいたっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の意向や不安をその都度聞き、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族にも参加して頂きたいと思っているが、ご家族の方々はまだ現役で働いている方が多いため、意見の反映まではしていない。面会時には情報は提供している。また、利用者は町内会の行事に参加することで周囲の理解を頂いている。	・家族の来訪時には、利用者の健康状態等を報告して、意見や要望を聞くようにしている。 ・「なごみ祭り」ではバイキング形式の食事会を催し、利用者・家族との親睦を図り、意見や要望を出してもらっている。出された意見は検討して運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換を行っている。会議は全職員を対象としている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議で業務の進め方など運営について話し合っている。 職員の提案で、夏場は散歩に代えて全員で軽い体操を行い、また排泄後、温タオルでの清拭を取り入れて、清潔感が保てるよう改善した。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則にのっとり勤務についている。また、職員個々の特性を知るために管理者がアンケートをとり、それを元に面談を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記のアンケートの回収結果を元に、希望の研修に参加してもらうように日程の調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の研修の参加はもちろんのこと、今年度は協議会のエリア内のつながりがより深くなったので、今までよりも研修での意見交換がしやすくなった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報は大事にしながらも、介護職としての専門的な目線をもって不安なこと、要望などに耳を傾けながらの関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様にとっての一番の大切な存在は家族であるという自覚を持って、介護職がご家族を受け入れるように心がけている。また、通信やお手紙を機会あるごとに送っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、ご家族とご本人の気持ちや話をよく聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を、介護されるだけの立場に置かない事はもちろんのこと、介護者も介護するだけの立場にならず、生活の中で共に作業などをする場面に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時や、来所できない状況の中でも、近況を報告したりご家族からの情報も大事にして、職員全員が共有出来る様にしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状では、認知症状の進行により馴染みの方の面会は難しい状況と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と認知症の進行で、友人知人の来訪はなくなり、電話の取次ぎをすることも少なくなった。事業所では、利用者が年賀状、暑中見舞いを出すことを支援している。 ・墓参りなどは家族の協力で出かけている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活歴や性格を知った上で、利用者同士の関わり合いや職員の関わりをより深めるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の施設では情報も入ってくるので、その後面会に行ったりする事が出来る		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位に検討しているが十分に行かない面もある。相手に自分の意思を伝えられないので状況を見ながら判断している。	・言葉を掛けて、利用者の思いや意向の把握に努めているが、把握の難しい方がふえてきている。困難な方には、イエス・ノーで答えてもらったり、動作や表情、顔色で判断するようにし、得られた情報は記録して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族がこれまで同居をしていないことが多いため、情報として欠けたり現状と違う場合が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護者だけではなく、連携しているDrやNsに日頃からアドバイスをもらい、医療機関との連携を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人の方のケアについて、介護職、ご家族、Dr、Nsと意見交換し日々のケアを作り出している	・医師、看護師の往診後職員会議を開き、得られた情報や家族の意向も入れて職員間で話し合い、介護計画を作成している。 ・介護計画は通常は3か月毎に、変化がある時はその都度に、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報は、共有し活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は、現在のところ無理と思われる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活を楽んでもらうために、ボランティアの受け入れを継続していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により細かい指示が出されているため、利用者の健康管理が出来ている。往診時以外でも医師との連絡が密に出来ている。	・内科以外は、これまでのかかりつけ医への受診を支援し、家族または職員が同行している。 ・協力医による2週に1回。歯科医による週1回の往診があり、24時間の連携体制をとっている。看護師は毎週健康管理に来訪している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師勤務により情報の共有に徹し細かい指示を得られている。また、24時間連絡体制が整っており利用者の急変時あわてることなく対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院といつも良い連携を保ち受診や入退院のもスムーズに情報交換、指導、相談を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後のことを考慮し看取り加算を取得したが、現状まだ対応するような人はいない。仮に重度化した場合は同法人内の病院に搬送するようとの医師の指示がある。	・家族には入居時に、常時医療行為が必要になった場合は、法人の病院に入院になる旨説明し了解を得ている。 ・重度化した場合は「重度化対応指針」に則り対応し、状況に応じて入院してもらおう用意ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に対し緊急対応時のマニュアルを配布し初期対応の仕方をNsから指導してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非日常的なことは常に想定しなければいけないと思っている。町内会や協議会のエリア内の協力体制も築いている。	・年2回の避難訓練の内、1回は消防署が立ち合い夜間想定訓練を行ってきたが、昨年は未実施である。 ・訓練時には町内会長からの連絡で、近隣住民も参加、協力する体制ができています。 ・非常用の食料・水を3日分と排泄用の備品等を備蓄している。	・消防署の協力を得て、所定の避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行うことが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉かけや態度も、人的環境の一つだという自覚をもって、対応するよう常に話している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は認知症実務研修で接遇やプライバシー確保について学び、利用者に対して年長者として尊敬の念をもって対応している。 ・不適切な場面が見られたときは、職員同士で注意し合っている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけや傾聴を大事にして職員全員で努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな毎日の生活の流れはあるのだが、生活の中で、一人ひとりのサインを見逃さないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員女性なので、好きな洋服や小物を買いたいかと思っているが、今の所は職員が個々の好みを聞いて買っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	徐々に食事の準備や片づけができない状況になっているが、食事を楽しみたい気持ちは強いので、外食の機会をレクリエーションとして取り入れ楽しんでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者の好みを聞き取り、意向を反映した家庭料理を提供している。 ・行事食では、七草かゆや恵方巻、ひな祭りには、チラシ寿司などを楽しみ、年2～3回は外食している。 ・職員は、利用者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や高血圧症の利用者様を考慮し、野菜を中心に消化のよいメニューを提供している。 水分補給はこまめに、また夜間の水分補給にも配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外しうがいと口腔ケアを行っている。 就寝前は、義歯の消毒を必ず行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを一人ひとり細かく把握している。 便意や尿意がない方に対しては、時間で声掛けをしている。失敗した場合は、さりげなく対応している。	・排泄チェック表で一人一人の排泄リズムを把握して、さりげなく声掛けし、トイレでの排泄を支援している。 ・夜間も声掛けで全員トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	年齢により便秘しやすい状況にあるが、Drの指示で適切に下剤で調整している。また、献立も消化のよいものを提供している。 活動の中に軽体操の時間を設けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回は入浴をしているが、多汗や失禁の状況にある時には随時入浴をするようにしている。 ご本人の好きな入浴の時間帯を把握している。	・入浴は週2～3回午前中を基本としているが、失禁などのときはその都度、また利用者の希望があればできる範囲で対応している。 ・入浴を拒む方には、時間帯を変え、又職員を替えて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の方針で眠剤を使用していない。午前中はその方のペースに合わせて過ごしてもらい、午後や夜間は良眠出来る様に促している。徘徊する方や予想外の行動をとる方に対しても事故のない様に見守りを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時は、必ず職員2人で声をかけながら行っている。与薬の変更があった場合には、症状の変化などを必ず記録に残しDrへ報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の最大の楽しみは食事である事から、食事を中心とした行事を企画・実行している。決まった役割はないが、状況やその方の体調を考慮しながら、軽作業をなるべく全員の方に分担しお願いする様にしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩に行けなくなったために、地域とのつながりが薄くなった様に思われる。それでもご家族の協力の下で外出される方はいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の良い日は近隣の公園に散歩に出かけ、又、玄関前の庭やベランダで外気浴を行っている。 ・花見や地域の盆踊りには、利用者全員が参加して楽しんでいる。 ・家族の協力を得て、お墓詣りに行く方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護度が高くなり、外出支援が難しくなっていますが、気分転換や体力維持のためにも、定期的な外出を実施することが期待されます。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理は施設で行っている。混乱を招く恐れがあるため、自室には金銭等は置かないようにご家族にも話をしてご理解いただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いてもらう機会をつくり楽しんで頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分(特に玄関・居間)には、季節の花を絶やさないう様に心がけている。利用者様の描かれた絵や作品を掲示している。 天気の良い日にはベランダでのティータイムにして季節を感じてもらっている。	・リビングは明るく、適温に保たれ、利用者は刺し子や塗り絵、スポーツ観戦、ゲームなどを楽しみ、居心地の良い環境になっている。 ・壁には職員と利用者による作品、棚には季節の花が飾られ、季節が感じられるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置いてあるので、そこでお茶を飲んだりしてひと息ついてもらうこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋を明るくするようなカレンダー・ご自分の作品を飾る様にしている。エアコンの温度や設定をご本人の希望に添っている。	・居室は、温湿度計で適温に保たれ、ベッド、布団、カーテンなどが設置されている。 ・利用者は、チェストやテレビ、家族の写真、自分が描いた水彩画など馴染みの物を持ち込んでいる。 ・清掃や衣類整理は、職員が利用者と一緒にいき清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しつつ、出来るだけ残存機能を活かせるように声掛けをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 平成27年9月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の運営について。	イベント（10/6, 11/8）の中で、家族への事業所の活動報告を行う時間をつくる。	開催日に、個々のご家族様と話し合いができる場面を作り出す。	3か月
2	35	災害対策に関する避難訓練の実施について。	地震や水害を想定した防災、避難運連を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一段階として市の「あんしんかん」へ行き、地震の体験DVDより知識を得ることとする。 ・11月に行われる町内の防災訓練に参加し、町内との連携を深める。 	3か月
3	49	日常定期的に戸外へ出るには、どのような状況を作ったら良いか。	天候や体調を考慮しながらも、日に1～2人ずつ近くを散歩する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアが手薄にならないように気配りしながら、職員も入居者様も穏やかな気持ちになれるような方法で行う。 ・時間的、人数的な無理をしないようにする。 	3か月
4					
5					